
巫女の願い

時呉夾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

巫女の願い

【Nコード】

N4376G

【作者名】

時呉夾

【あらすじ】

その日はいつもと違っていた。あの子が私を待つそれは何か異変を意味していた。霊夢、貴女はどうなってしまうの？分かっていても分からない想い……。

「どうしたの紫？」

博麗の巫女が私に聞いてきた。・・・なにも無いわ、貴女には・・・。

変な紫、そう言って巫女は置いたお茶をまた口元に持っていく。
私はその様子を、ジッと見ていた・・・・・・・・。

く全ては分かっていたことだった、認めたくないだけだったく

私が霊夢の元を訪れたのは、三日月の夜のことだった。特に用事
があつて行つたわけではない。いつものように、可愛らしく文句を
垂れるあの顔見たさに行つたようなものだった。

しかし、その・・・その晩の霊夢の様子が違っていたことに形に
は出さなかったが内心とても驚いてしまった。

「今晚は紫、待ってたわよ。そろそろ来るころじゃないかと思って
いたわ」

「あら、そう？やつと素直になってくれるなんてここまで通い詰め
た甲斐があつたというものだわ」

私の冗談にも彼女はただ、ウン・・・と言ったまま話を続けよう
としない。だからといって私もその雰囲気を超えることなんてその時
にはできなくて静かにその時は過ぎてしまっていた。

まあ、結局雰囲気破ってしまったのは私の訳だが・・・。

「いったいどうしたのよ、貴女が私を待っているだなんて？」

そう、明るい口調で言ってみたものの、彼女が言わんとしている
ことはもう分かっていた。でもまさかこんな早くにそんなことなん
て・・・。。。

「紫・・・貴女はこれまで何代も博麗の巫女を見てきたのよね？・・・
・・・私も・・・もう少しで私も先代までのようになるのかしら・・・
・・・？」

「そ、それは・・・まだ決まったことじゃないでしょ。それ
に」

「うっん」

私の言葉を遮って霊夢は言った。

「私は・・・分かるの・・・もう残された時間が少ないってことに・・・
・・・何故だか分かってしまうのよ」

「霊夢・・・」

「ねえ、紫？ひとつお願いがあるんだけど・・・」

そう、初めて私を心から頼ったその声につい頷いてしまう。その合図を見て巫女は続けた。

「紫・・・皆の記憶を消して!!!」

「えっ・・・何を言うのよ霊・・・」

「分かってる!!! 異変を止める役目である私が今、こうやって紫に頼むことで異変を起こそうとしている・・・それはとってもいけないことだつて分かっているわ。でも、でも、どうしても耐えられないのよ。この私は人間だけでなく妖怪とも、幽霊とも、神様とも関係を築いて来てしまった。そしてそれがそのまま何も知らない次の私に引き継がれていってしまうことはあまりにも可哀想だし、魔理沙とかも困惑しちゃうわ。それに・・・私は・・・私のままでいたい。私が他の存在で見られるのなんて・・・嫌なの・・・!!! それならいっそ貴女だけの心に・・・」

「・・・分かったわ・・・」

「えっ？」

困惑する霊夢。

「貴女が私に頼んだ最後の願い、きちんと叶えてあげましょう。でも、何人かはさすがに私の力でも無理よ。そこら辺の力だけでは私も勝てないから・・・良い？」

霊夢がコクンと頷いた。その頭を撫でると、ムキになって怒られた・・・。

「いざ離れてみると何か物足りなかった、こんなに近くにいたせい？」

霊夢がこの場所を去るその前日に、博麗神社で盛大に宴会を開いた。

私もその一端に関わって、現世からチョコッと物をトツテキテ、神社に献上した。

宴会の間、霊夢は始終笑っていた。心の中がどうなっていたか私には知ることはできないし、また、知りたくもない。

でも、彼女のその行動に対して気にする者は誰もい・・・たにはいた。伊吹萃香や、霧雨魔理沙、魂魄妖夢などがそうだ。しかし、霊夢は笑って・・・笑い飛ばしていた。

何故・・・何故彼女はこんなにも強いのだろうか・・・。力とか、そういうことではない。まあ霊夢だもの、力がないとかそういうことは言う気も無いけどそういうのじゃない。彼女の意志は、とても強い。私の方が全然生きてきたのに何度見てもこの状況にはなれることができない。

「どうしたんだ紫？元氣ないじゃないかよ。いたずらとかしなくてもいいのか？」

萃香が徳利を傾けながらいった。

「いえいえ、たまには素の姿で宴会を楽しむのも良いかと思って、ね。だってあの霊夢が宴会をこんなに盛大に開いたのよ。手を出す方が野暮じゃない？」

そりやそうか、笑って小さな百鬼夜行はまた霊夢のところに甘えに行った。

「私は、静かにその時を待っていた、全てが終わり、全てが始まるその時を」

神社に残ったのは私と霊夢だけになった。何人か残っていたが、残っていた人たちは全員萃香に頼んで蹴散らしてもらった。

「仕込みは終わったわ、後は・・・」

「私が消えればそれが作動すると・・・ね？」

私が言い淀ませた所を霊夢が続けて言った。ああ、この子はホン

トにもう。

「ごめんなさい、こんな無理言っちゃって」

霊夢が済まなさそうに顔を下げる。その顔を無理やり上げて私は言った。

「霊夢、そんな顔しないで。私は自分の意思でこれをしただけよ。貴女がそういう風に思ったりする必要はないわ」

「でも………」

「でもないの。………霊夢、私は嬉しかったわ。貴女といろんなことが出来て。今までは違ったわ。皆々妖怪である私を毛嫌いしてくれちゃって、私もそれで怒ったりしながらの人生だったわ。私たちはお互いに消えてはならない存在。この幻想郷の守護者である私たちは他とは別格の存在。今までの博麗の巫女の多くはその意味をはき違えていた。自分がいるからこそ幻想郷はあるんだと思うようになって乱れた時もあった。」

「それでも、貴女は違ったわ。貴女は妖怪でも、人間でも一つの命として接してくれた。たとえ私がどんな……悪戯をしようとも貴女はブツクサ言いながらも私という存在を受け入れてくれた。異変解決に協力してくれたり、はたまた私の我儘を聞いてくれたりしてくれた」

「だけど、なによりも嬉しかったことは……貴女とこうして……こうしてしゃべったり喜んだり、怒ったり、哀しんだり、楽しむことが出来たこと、それがどんなことよりも嬉しかった……。ありがとう、ありがとうね霊夢………」

私は、頭を下げた。幻想郷の守護者として、そして一人の彼女の友人として。

「ねえ、紫？」

「何？霊夢・・・・・・・・」

霊夢が優しい声で言った。

「今まで、どうしても言えなかったんだけど・・・・・・・・私、紫のことが好き。本当に・・・・・・・・本当に大好きだよ・・・・・・・・ずっと言いたくて言えなかった・・・・・・・・」

「霊・・・・・・・・夢・・・・・・・・？」

霊夢が私に抱きついて来て言った。顔がどうなっているか分からないが、とりあえず耳が真っ赤だ。たぶん私もそうだと思うが・・・・・。

「だから紫・・・・・・・・私の分まで生きて・・・・・・・・私という存在を心に秘めて必死に生きて・・・・・・・・そして・・・・・・・・次の『私』をよろしくね・・・・・・・・それ・・・・・・・・わた・・・・・・・・しのさいご・・・・・・・・の・・・・・・・・おね・・・・・・・・がい・・・・・・・・じゃあ・・・・・・・・ね・・・・・・・・ゆか・・・・・・・・」

「ああ・・・・・・・・あ・・・・・・・・霊夢・・・・・・・・霊夢・・・・・・・・!!!!!!」

私の願いもむなしく、抱かれたまま霊夢の体は薄くなっていき、強く抱きしめたその瞬間、霊夢は光の粒となって消えて行ってしまった・・・・。

後に残ったのは、一着の腋の開いた巫女服だけだった・・・・・・・・

。

「どうしたの紫？」

博麗の巫女が私に聞いてきた。・・・なにも無いわ、貴女には・・・。

変な紫、そう言っ
て巫女は置いたお茶をまた口元に持っていく。
私はその様子を、ジッと見ていた・・・。

何もかもが終わって今は成り立っている、
霊夢、どうか私を導いて

了

（後書き）

いかがだったでしょうか？自分は結界コンビは良い組み合わせだと思っ
ています。それに書きやすいですし・・・。この作品のテーマは「別れ・旅立ち」です。人としての身分、さらに博麗の身である彼女は何を思い、この世を去っていくのでしょうか。その先に何かあるかは分かりません。それでも、その去りゆく仲間を思いながら
も次へと続く想いこそ大事だと思うのです。・・・偉そうにスミマ
セン、もし、この作品で何か思っただけのなら幸いです。あ
りがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4376g/>

巫女の願い

2010年12月28日14時23分発行